

首都圏および近畿圏等在住者（ネットユーザー）の観光の動向 および平城遷都 1300 年祭への来訪ニーズに関する調査 Part 2

先月号（10月号）では Part1 として「首都圏および近畿圏等在住者の観光の動向および奈良の宿泊観光ニーズ等」について掲載した。今月号では「首都圏および近畿圏等在住者の平城遷都 1300 年祭への来訪ニーズ等」を掲載する。

1 調査の概要（省略）

※調査概要は Part1（「センター月報」2009 年 10月号）参照。

2 平城遷都1300年祭の来訪ニーズ等について

1. 平城遷都 1300 年祭の認知度

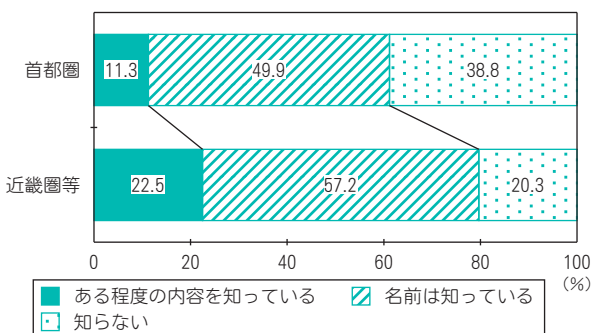
平城遷都 1300 年祭の認知度について尋ねた。

首都圏では、「ある程度の内容を知っている」との回答が 11.3%と全体の 1 割強を占め、「名前は知っている」は 49.9%と半数近くを占めた。一方で、「知らない」との回答は 38.8%と全体の 4 割弱となっている。

近畿圏等では、「ある程度の内容を知っている」との回答が 22.5%と全体の 2 割強を占め、「名前は知っている」は 57.2%となった。一方で、「知らない」との回答は 20.3%と全体の 2 割となっている。

首都圏、近畿圏等の比較では「ある程度の内容を知っている」（11.2 ポイントの差）と「名前は知っている」（7.3 ポイントの差）が近畿圏等に多く、「知らない」（18.5 ポイントの差）が首都圏に多かった。

平城遷都 1300 年祭の認知度



<年代別>

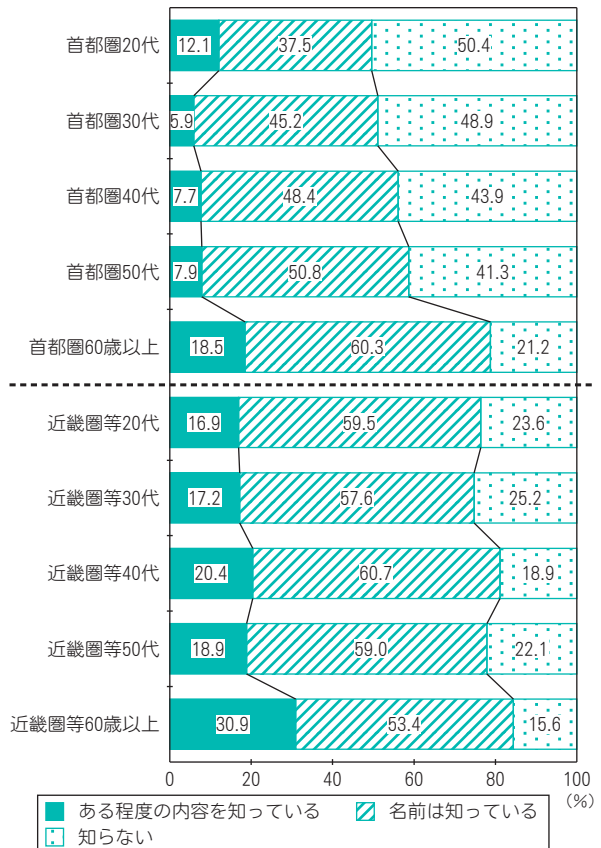
年代別にみた場合、首都圏では「ある程度の内容を知っている」との回答は 20 代と 60 歳以上に多く、30 代、40 代、50 代は少ない。

また、「名前は知っている」との回答は 60 歳以上に多い。

一方で、「知らない」との回答は年代が上がるほど少なくなっている。

近畿圏等では、「ある程度の内容を知っている」との回答は 60 歳以上に多いが、それ以外の年代では「ある程度の内容を知っている」、「名前は知っている」とも大きな差異はみられなかった。

平城遷都 1300 年祭の認知度（年代別）



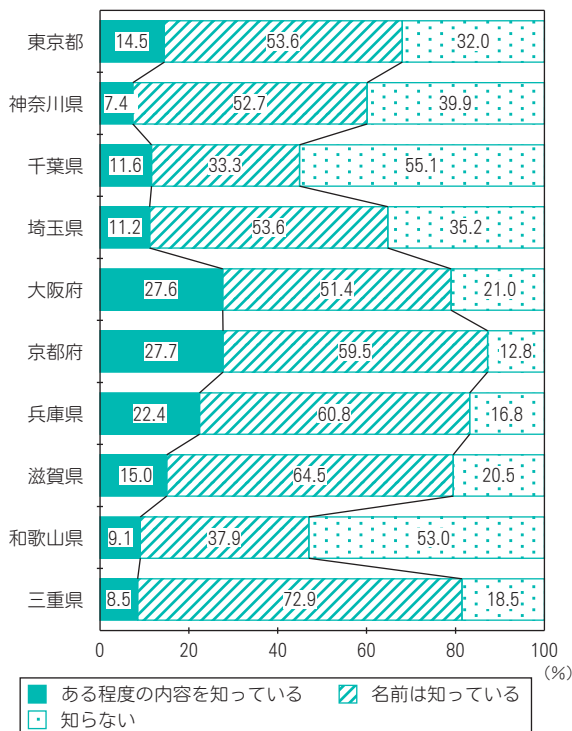
<都道府県別>

都道府県別にみた場合、「ある程度の内容を知っている」との回答は「京都府（27.7%）」、「大阪府（27.6%）」、「兵庫県（22.4%）」の順に高く、2割を超えている。反対に低いのは「神奈川県（7.4%）」、「三重県（8.5%）」、「和歌山県（9.1%）」の順だった。

「ある程度の内容を知っている」との回答は相対的に首都圏が低く、近畿圏等が高いが、近畿圏等のなかでも和歌山県と三重県は低く、府県間でのバラツキもみられる。

一方、「知らない」との回答は総じて首都圏のほうが高い。最も多いのが「千葉県」（55.1%）で過半数を占めている。首都圏の他の都県は30%台である。近畿圏等では「和歌山県」（53.0%）が最も多く過半数を占める。他の府県は総じて10~20%前後で、「知らない」との回答は近畿圏等の中では和歌山県だけが特に多かった。

平城遷都 1300 年祭の認知度（都道府県別）



2. 平城遷都 1300 年祭を知った経路

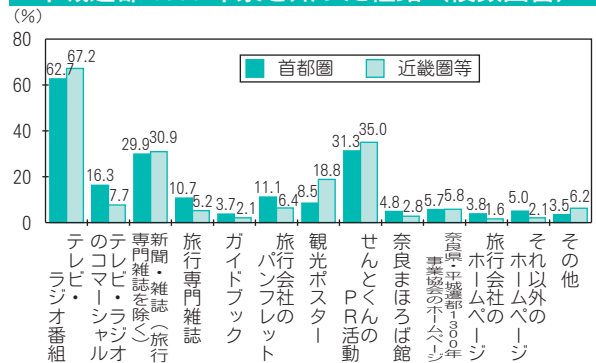
前記設問で、平城遷都 1300 年祭について「ある程度の内容を知っている」または「名前は知っている」と回答した人に「平城遷都 1300 年祭を知った経路」を複数回答で尋ねた。

トップ3は首都圏、近畿圏等とも同じで、「テレビ・ラジオ番組」（首都圏（以下「首」）：62.7%、近畿圏等（以下、「近」）：67.2%）、「せんとくんの PR 活動」（首：31.3%、近：35.0%）、「新聞・雑誌（旅行専門雑誌を除く）」（首：29.9%、近 30.9%）の順となった。特に「テレビ・ラジオ番組」は首都圏、近畿圏等とも6割以上が回答している。

首都圏と近畿圏等との比較で特徴的なものとして、首都圏に多いのは「テレビ・ラジオの商業」（首：16.3%、近：7.7%）、「旅行専門雑誌」（首：10.7%、近：5.2%）などで、「観光ポスター」（首：8.5%、近：18.8%）は近畿圏等に多かった。

なお年代別、都道府県別にみた場合、大きな特徴はみられなかった。

平城遷都 1300 年祭を知った経路（複数回答）



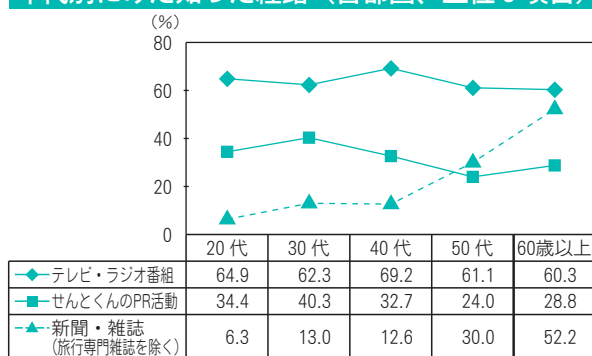
以下の折れ線グラフは、「平城遷都 1300 年祭を知った経路」の上位3項目を年代別にみたものである。

首都圏、近畿圏等とも同じ傾向を示しており、「テレビ・ラジオ番組」は年代に関係なく多い。

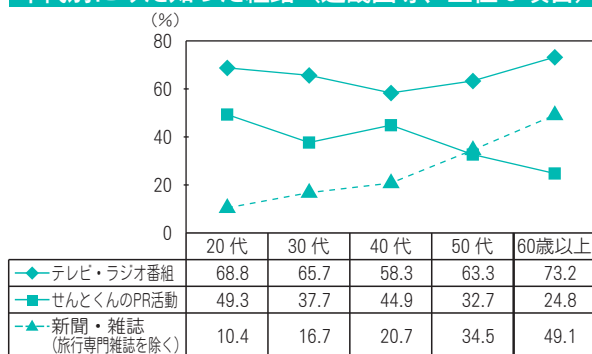
特集

「新聞・雑誌（旅行専門雑誌を除く）」は年代が上になるほど割合も大きくなり、20代と60歳以上の差は、首都圏で45.9ポイント、近畿圏等で38.7ポイントとなっている。「せんとかんのPR活動」は首都圏、近畿圏等とも「50代」、「60歳以上」での割合が比較的低くなっている。

年代別にみた知った経路（首都圏、上位3項目）



年代別にみた知った経路（近畿圏等、上位3項目）



3. 平城遷都 1300 年祭の興味度の有無

平城遷都 1300 年祭の興味度の有無について尋ねた。なお、回答に先立ち平城遷都 1300 年記念事業協会のホームページにアクセスし、「平城遷都 1300 年祭 事業計画 要約版」の内容を確認してもらった。

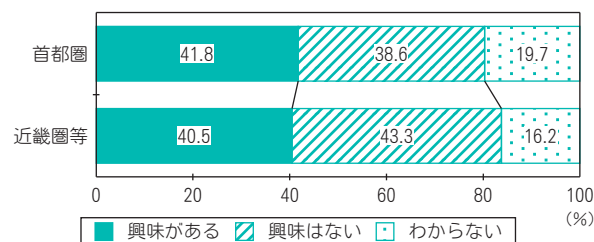
首都圏では「興味がある」との回答は 41.8% で、「興味はない」との回答は 38.6% となった。また、「わからない」との回答が 19.7% となった。

近畿圏等では「興味がある」との回答は 40.5% で、「興味はない」との回答は 43.3% となった。

また、「わからない」との回答が 16.2% となった。

首都圏では「興味がある」が「興味はない」を 3.2 ポイント上回ったが、近畿圏等では「興味はない」が「興味がある」を 2.8 ポイント上回った。

平城遷都 1300 年祭の興味度



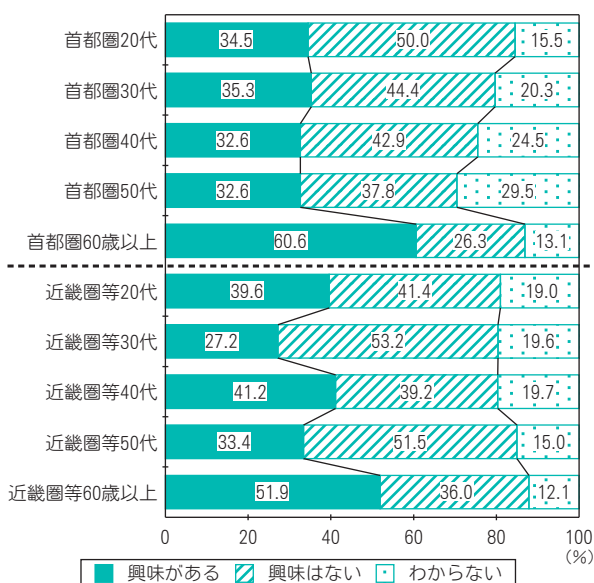
<年代別>

年代別にみた場合、首都圏では「興味がある」と回答した人は 60 歳以上に多く、他の年代ではさほど変わらなかった。

「興味はない」と回答した人は 20 代が最も多く、年代が若いほど高くなる傾向がある。

近畿圏等では、「興味がある」と回答した人は 60 歳以上に多く、30 代でやや少ないが、それ以外では大きな特徴はみられない。また、「興味はない」と回答した人は 30 代、50 代が多かった。

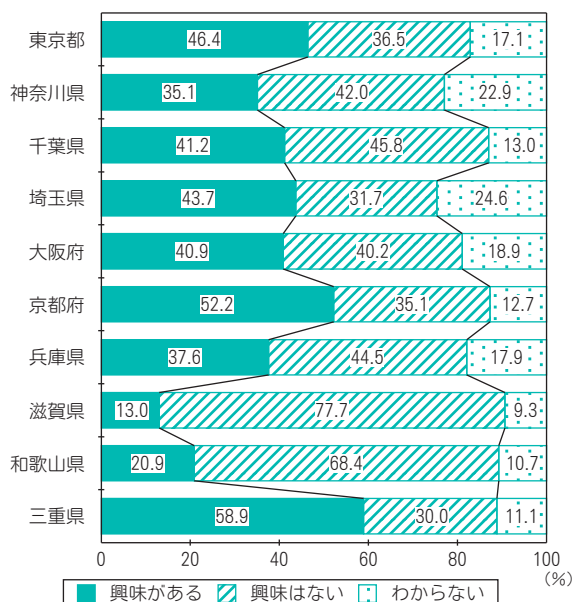
平城遷都 1300 年祭の興味度（年代別）



<都道府県別>

都道府県別にみた場合、「興味がある」との回答は「三重県（58.9%）」、「京都府（52.2%）」、「東京都（46.4%）」、「埼玉県（43.7%）」の順に多くなっている。一方で「滋賀県（13.0%）」、「和歌山県（20.9%）」は少ない。「興味がない」との回答は「滋賀県（77.7%）」、「和歌山県（68.4%）」が多く、「三重県（30.0%）」、「埼玉県（31.7%）」が少なかった。

平城遷都 1300 年祭の興味度（都道府県別）



「興味がある」の割合から「興味がない」の割合を引いた数値（差し引き）で比較すると、最も高いのが「三重県」の 28.9 で、以下、「京都府」の 17.1、「埼玉県」の 12.0、「東京都」の 9.9、「大阪府」の 0.7 と続く。

一方で差し引きがマイナス（「興味はない」が「興味がある」を上回っている）なのは、「滋賀県」（-64.7）、「和歌山県」（-47.5）、「神奈川県」、「兵庫県」（いずれも -6.9）、「千葉県」（-4.6）の 5 県で、特に「滋賀県」と「和歌山県」は「興味はない」が「興味がある」を大きく上回っている。

都道府県別にみた平城遷都 1300 年祭の興味度

	興味がある (%)	興味はない (%)	差し引き
東京都	46.4	36.5	9.9
神奈川県	35.1	42.0	-6.9
千葉県	41.2	45.8	-4.6
埼玉県	43.7	31.7	12.0
大阪府	40.9	40.2	0.7
京都府	52.2	35.1	17.1
兵庫県	37.6	44.5	-6.9
滋賀県	13.0	77.7	-64.7
和歌山県	20.9	68.4	-47.5
三重県	58.9	30.0	28.9

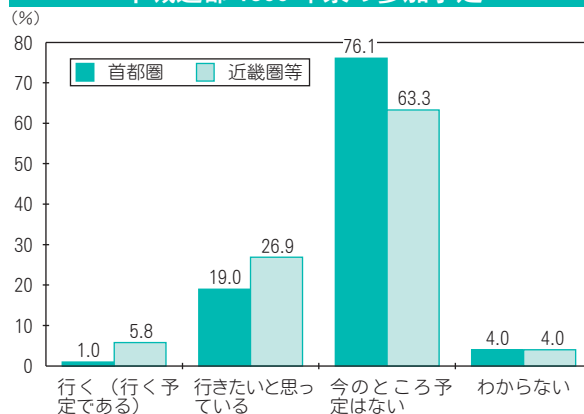
4. 平城遷都 1300 年祭の参加予定

平城遷都 1300 年祭の参加予定について尋ねた。首都圏では「行く（行く予定である）」と回答した人は 1.0%、「行きたいと思っている」と回答した人は 19.0%だった。一方で、今のところ予定はない」と回答した人は 76.1%と 4 人に 3 人の割合となった。

近畿圏等では「行く（行く予定である）」と回答した人は 5.8%、「行きたいと思っている」と回答した人は 26.9%だった。一方で、「今のところ予定はない」と回答した人は 63.3%と 6 割以上を占めている。

首都圏、近畿圏等とも調査日時点（2009 年 9 月）で平城遷都 1300 年祭に「行く（行く予定である）」または「行きたいと思っている」人は首都圏で 2 割、近畿圏等で 3 割強を占めた。

平城遷都 1300 年祭の参加予定



特集

次に平城遷都 1300 年祭の興味度と参加予定をクロス集計した。

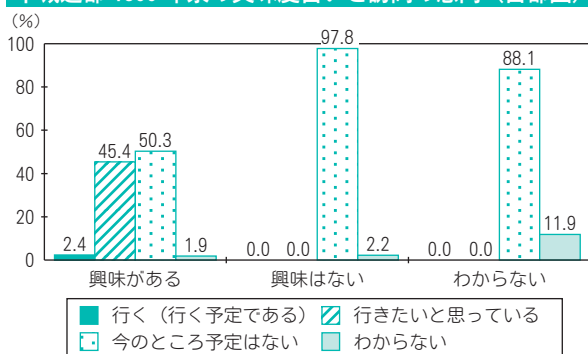
<首都圏>

「興味がある」と回答した人のうち 2.4% が「行く（行く予定である）」と回答し、45.4% が「行きたいと思っている」と回答した。しかしながら、「いまのところ予定はない」との回答も 50.3% あった（その他、「わからない」が 1.9% あった）。

「興味はない」と回答した人のうち 97.8% が「いまのところ予定がない」と回答した。「わからない」との回答は 2.2% で、「行く（行く予定である）」または「行きたいと思っている」との回答はなかった。

また、（興味が）「わからない」と回答した人では 88.1% が「今のところ予定はない」と回答し、（参加が）「わからない」との回答は 11.9% だった。「行く（行く予定である）」、「行きたいと思っている」との回答はなかった。

平城遷都 1300 年祭の興味度合いと訪問の意向（首都圏）



<近畿圏等>

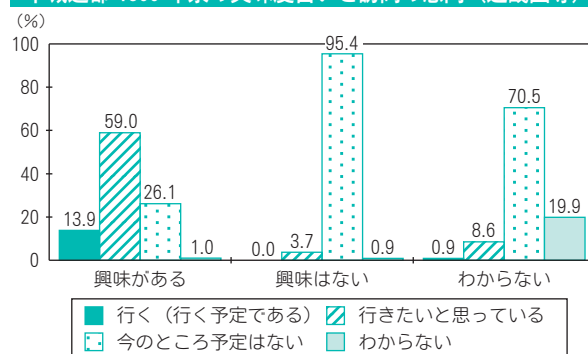
「興味がある」と回答した人のうち「行く（行く予定である）」と回答した人は 13.9%、「行きたいと思っている」と回答した人は 59.0% だった。しかしながら、「いまのところ予定はない」との回答も 26.1% あった（その他、「わからない」が 1.0% あった）。

「興味はない」と回答した人では 95.4% が

「いまのところ予定がない」と回答した。「行きたいと思っている」が 3.7%、「わからない」が 0.9% あり、「行く（行く予定である）」との回答はなかった。

また、（興味が）「わからない」との回答者では 70.5% が「今のところ予定はない」と回答し、「行く（行く予定である）」が 0.9%、「行きたいと思っている」が 8.6%、（参加が）「わからない」が 19.9% だった。

平城遷都 1300 年祭の興味度合いと訪問の意向（近畿圏等）



5. 参加行程

平城遷都 1300 年祭に「行く（行く予定である）」または「行きたいと思っている」と回答した人に行程を尋ねた。

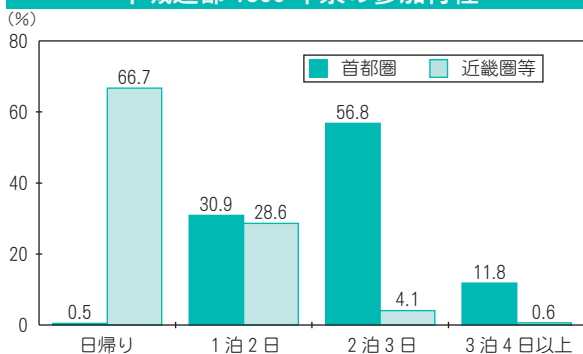
※「行く（行く予定である）」のサンプル数が少ないことから、「行く（行く予定である）」と「行きたいと思っている」の合計で分析している（以下、同じ）。

首都圏では「2泊3日」（56.8%）が最も多く、全体の 5 割以上を占め、「1泊2日」は 30.9% で全体の 3 割強である。また、「日帰り」（0.5%）、「3泊4日以上」（11.8%）は少数だった。

近畿圏等では、「日帰り」（66.7%）が圧倒的に多い。「1泊2日」は 28.6% となり、両者で全体の 95.3% を占めている。「2泊3日」（4.1%）と「3泊4日以上」（0.6%）は少数だった。

次に、近畿圏等在住者の参加行程を都道府県別

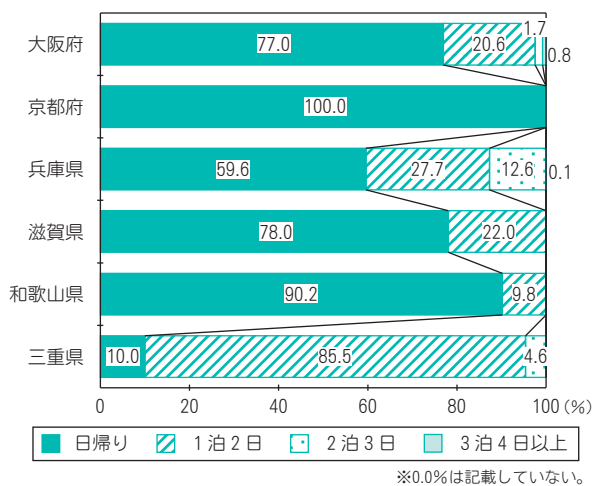
平城遷都 1300 年祭の参加行程



にみると、三重県を除いて概ね「日帰り」が中心となっている。特に、京都府は日帰りが100.0%、和歌山県が90.2%と高い。ただし、大阪府、兵庫県では日帰りが主流であるものの、「1泊2日」や「2泊3日」も見受けられる。

一方、三重県は「1泊2日」が85.5%と最も多く、「日帰り」は10.0%と少なかった。

都道府県別に見た平城遷都 1300 年祭の訪問行程 (近畿圏等)



6. 宿泊地

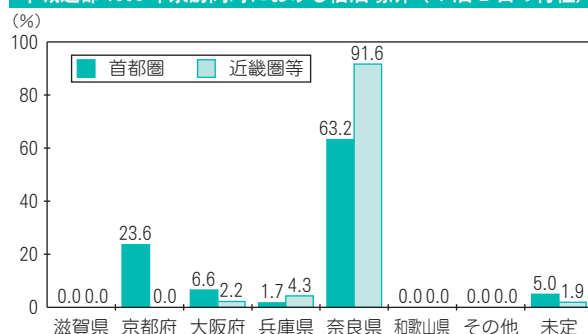
平城遷都 1300 年祭に宿泊旅行で参加すると回答した人に宿泊地を尋ねた。

<1泊2日>

首都圏では「奈良県」が63.2%と6割強を占め、他府県では「京都府」が23.6%、「大阪府」が6.6%となり、奈良県以外の宿泊は全体の約3

割強となった。近畿圏等では「奈良県」が91.6%と圧倒的に多い。以下、「兵庫県」(4.3%)、「大阪府」(2.2%)と続き、「京都府」はなかった。

平城遷都 1300 年祭訪問時における宿泊場所 (1泊2日の行程)



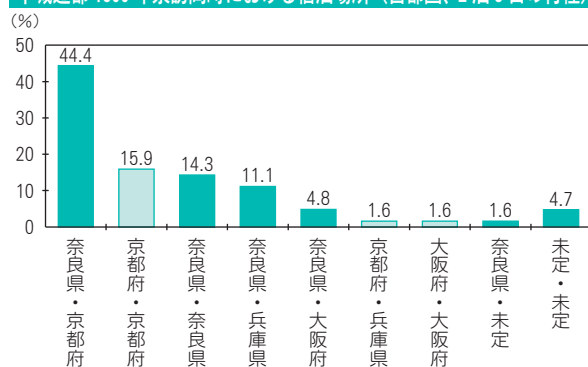
<2泊3日>

○首都圏

2泊3日の行程では、「奈良県・京都府」の組み合わせが全体の44.4%で最も多かった。以下は、「京都府・京都府」の15.9%、「奈良県・奈良県」の14.3%、「奈良県・兵庫県」の11.1%と続いた。

奈良県で開催されるイベントであるにもかかわらず、2泊のうち1泊も奈良県で宿泊しないとの回答は全体の19.1%を占めている。

平城遷都 1300 年祭訪問時における宿泊場所 (首都圏、2泊3日の行程)



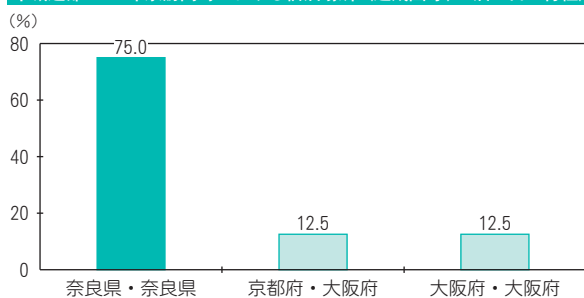
※「奈良県・京都府」とは、「奈良県と京都府でそれぞれ1泊する宿泊」、「奈良県・奈良県」とは「奈良県で2泊する宿泊」のことをいう。なお、泊まる順序は考慮していない。

特集

○近畿圏等

2泊3日の行程では、「奈良県・奈良県」の組み合わせが75.0%、「京都府・大阪府」、「大阪府・大阪府」の組み合わせがそれぞれ12.5%となった。

平城遷都1300年祭訪問時における宿泊場所（近畿圏等、2泊3日の行程）

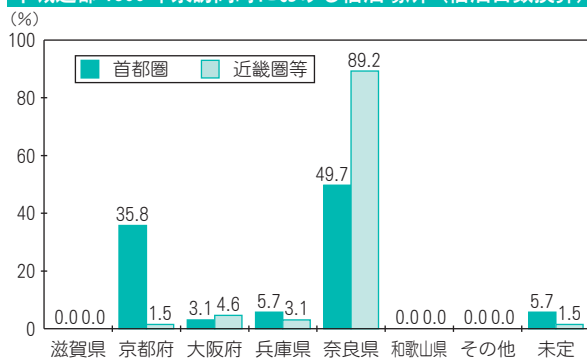


<宿泊日数換算>

「1泊2日」および「2泊3日」の行程を宿泊日数換算で宿泊場所の割合を分析した。

首都圏では「奈良県」が49.7%で最も多い。以下、「京都府」(35.8%)、「兵庫県」(5.7%)、「大阪府」と続いた。近畿圏等では「奈良県」が89.2%と圧倒的に多く、以下は「大阪府」(4.6%)、「兵庫県」(3.1%)、「京都府」(1.5%)と続くが少数だった。

平城遷都1300年祭訪問時における宿泊場所（宿泊日数換算）



<3泊4日>

「3泊4日以上」の行程と回答した人に、最も重きを置く宿泊地を尋ねた。

最も多かったのが「京都府」の49.0%、次いで「奈良県」の26.5%だった。

※回答数が少ないため、首都圏のみ参考値として掲載する。

7. 訪問時期

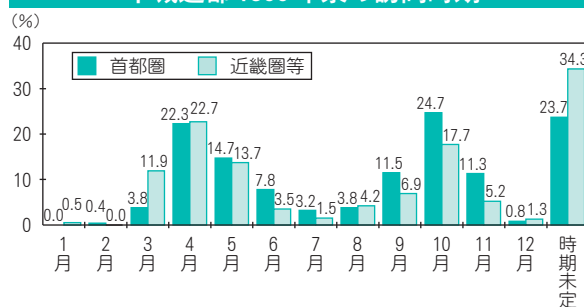
平城遷都1300年祭に「行く（行く予定である）」または「行きたいと思っている」と回答した人に、訪問の時期を複数回答で尋ねた。

首都圏で最も多いのが「10月」の24.7%で、以下は、「4月」(22.3%)、「5月」(14.7%)、「9月」(11.5%)、「11月」(11.3%)と続く。近畿圏等で最も多いのが「4月」の22.7%で、以下は、「10月」(17.7%)、「5月」(13.7%)、「3月」(11.9%)、「9月」(6.9%)と続く。

「時期未定」との回答は首都圏で23.7%、近畿圏等は34.3%と比較的多かった。

観光客が比較的多く動く時期（Part1「過去1年間の国内宿泊旅行の実施月」参照）である「7月」と「8月」は首都圏、近畿圏等とも少数だった。「大極殿完成記念式典」が行われる4月、「平城遷都1300年記念祝典」が行われる10月は首都圏、近畿圏等とも人気が高かった。また、「1月」、「2月」、「12月」は非常に少なかった。

平城遷都1300年祭の訪問時期



8. 奈良県以外の旅行先

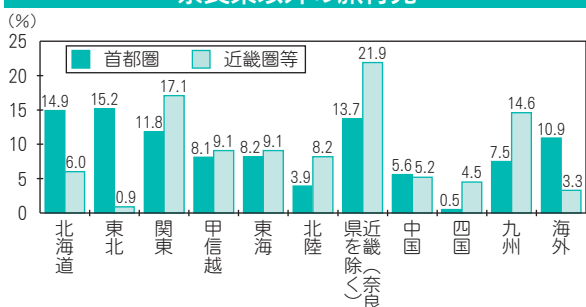
2010年の1年間に「平城遷都1300年祭に行かない」と回答した人で行かない理由が「他の旅行先に行く」と回答した人にその行き先を尋ねた。

首都圏では「東北地方」(15.2%)、「北海道地方」(14.9%)、「近畿地方（奈良県を除く）」(13.7%)

%)の順、近畿圏等では「近畿地方(奈良県を除く)」(21.9%)、「関東地方」(17.1%)、「九州地方」(14.6%)の順だった。

※回答者が比較的少数であるうえ、選択肢が47と広範になるため、行き先を地方にまとめている。

奈良県以外の旅行先



地方の区分(都道府県名等)

北海道地方	北海道	近畿地方	滋賀県
東北地方	青森県		京都府
	山形県	大阪府	
	岩手県	兵庫県	
関東地方	宮城県	中国地方	和歌山県
	福島県		岡山県
	東京都	広島県	
	神奈川県	鳥取県	
	埼玉県	島根県	
甲信越地方	群馬県	四国地方	山口県
	茨城県		徳島県
	栃木県	香川県	
	新潟県	高知県	
東海地方	長野県	九州地方	愛媛県
	静岡県		福岡県
	愛知県		佐賀県
北陸地方	岐阜県		長崎県
	三重県		大分県
海外	富山県		熊本県
	石川県		宮崎県
	福井県	鹿児島県	
		沖縄県	
		海外	

9. 不足している項目と充実させるべき項目

次ページの図は、観光地奈良に「不足する項目」と「充実させるべき項目」(Part1に記載)の中で特徴的な「温泉」、「食材・名物料理」、「おもてなしの心」、「宿泊施設の絶対数」の4項目をプロットしたものである。

「わからない」との回答が近畿圏等に比べ首都圏が多いことから「わからない」と回答した人を除いて分析している。

「不足している項目」は右にいくほど、「充実さ

せるべき項目」は上にいくほど割合が高くなる。また、破線は、原点を通る右上がりの45度線であり、プロットした点が波線に接近するほど「不足している項目」と「充実させるべき項目」の割合に近い。

①温泉

「温泉」は首都圏、近畿圏等とも数値は大きい。うえに45度の線から大きくかけ離れている(「不足している」が「充実させるべき」よりも多い)。要因としては、他に有数の温泉地が多くあることから、そもそも奈良には「温泉」を期待していないのではないと思われる。また、実際に不足していても一朝一夕に充実できるものではないことや掘削には相当の費用もかかるなど非現実な要素が多いことも挙げられよう。

②食材・名物料理

「食材・名物料理」に関しても不足する項目、充実させるべき項目とも高く、特に近畿圏等での割合が高かった。また、当センターが2003年1月に、東京で行った調査(「センター月報」2003年6月号掲載)でも「旅行先決定のポイント」として「おいしい食べ物」が上位にあがっており、観光客の「食」に関するニーズは高い。

近年、奈良県農林部が中心となり、飲食関連業界などと連携して「奈良のうまいもの」が開発され、市場にも数多く出回るなど、食材やおいしい料理が増えつつある。

「不足している」あるいは「充実させるべき」と回答した人が、こういった食べ物がある事を知っていて、あるいは食べたことがあるうえで「不足している」あるいは「充実させるべき」と回答したのか、食べ物自体を知らないで回答したのかは定かでない。

ただ、首都圏と近畿圏等を比較した場合、近畿圏等のほうが「食材・名物料理」が「不足している」、あるいは「充実させるべき」と回答した人

特集

の割合が多かった。

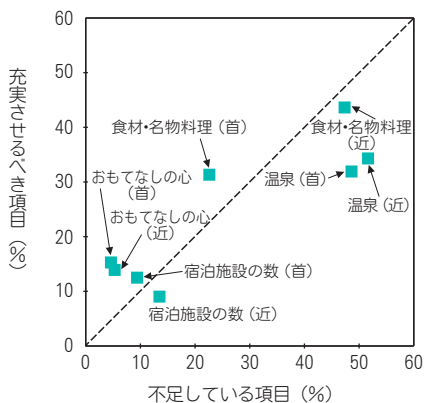
③おもてなしの心

「おもてなしの心」は、首都圏、近畿圏等とも「不足している」が「充実させるべき」よりもやや多いが、割合はさほど高くない。ただ、「おもてなしの心」については、その場所を訪れて初めてわかることが多いと考えられるから、奈良を訪れたことのない回答者は「おもてなしの心」の項目については評価していないと思われる。

④宿泊施設の数

「宿泊施設の数」は首都圏、近畿圏等とも少数意見だった。春・秋の一時期には宿泊客が多く満員になる日もあるが、回答者は、絶対数は不足していないと考えている。

不足している項目と充実させるべき項目



3 前回調査との比較 (首都圏在住者)

2008年8月1日～5日に実施した前回調査と今回の調査を比較した。

【留意点】

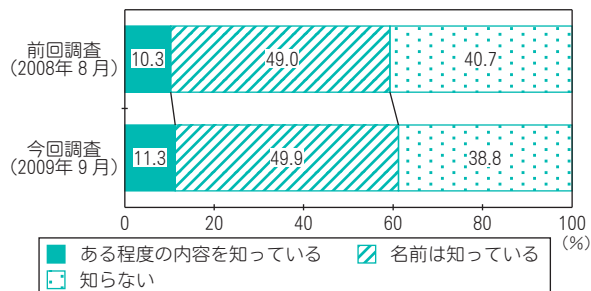
- ・ 前回調査は今回と同様のネット調査である。
- ・ 調査依頼者は前回調査と今回調査で異なる。
- ・ 回答者の男女比は異なる (前回調査の男女比=51.3:48.7、今回調査の男女比=50.9:49.1)
- ・ 前回調査は首都圏在住者を対象に行ったため、両調査の比較は首都圏在住者のみで行う。

・ 比較・分析をするにあたり前回調査に今回調査と同様のウエイト付けを行った。(ウエイト付け後の年代別の人口構成(都道府県単位)は同じ。)

1. 平城遷都 1300 年祭の認知度

「ある程度の内容を知っている」は前回調査の10.3%から今回調査の11.3%へ1.0ポイント上昇した。「名前は知っている」も前回調査の49.0%から今回調査の49.9%へ0.9ポイント上昇した。一方、「知らない」は1.9ポイント低下し、平城遷都1300年の認知度は、わずかながら上昇した。

平城遷都 1300 年祭の認知度

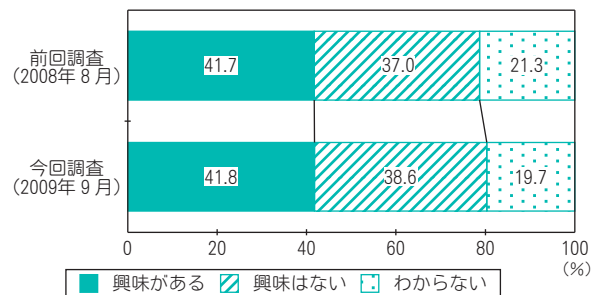


2. 平城遷都 1300 年祭の興味度

「興味がある」は、前回調査が41.7%で今回調査は41.8%となりほぼ横ばいだった。一方、「興味はない」の割合は前回調査の37.0%から今回調査の38.6%へ1.6ポイント上昇した(「わからない」の割合は21.3%(前回調査)から19.7%(今回調査)へ1.6ポイント低下)。

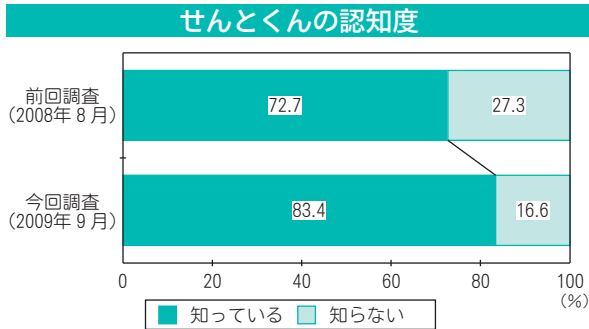
平城遷都1300年祭の興味度割合は前回調査と今回調査で大きな変化はないが、興味はないとの回答割合が若干増加している。

平城遷都 1300 年祭の興味度



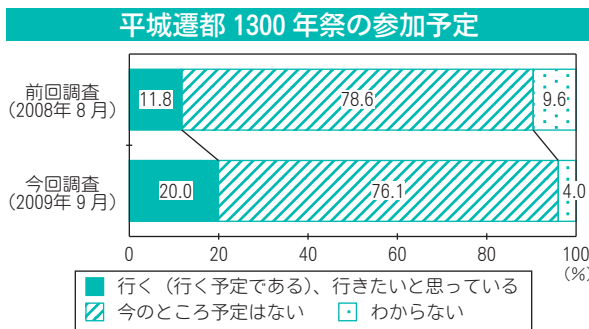
3. せんとくんの認知度

せんとくんを「知っている」は、前回調査の72.7%から今回調査の83.4%へ10.7ポイント上昇した。



4. 平城遷都1300年祭の参加予定

「行く（行く予定である）、行きたいと思っている」の割合は前回調査の11.8%から今回調査の20.0%へ8.2ポイント上昇した。また、「今のところ予定はない」の割合は前回調査の78.6%から今回調査の76.1%へ2.5ポイント低下した。



5. 平城遷都1300年祭がない場合の行動

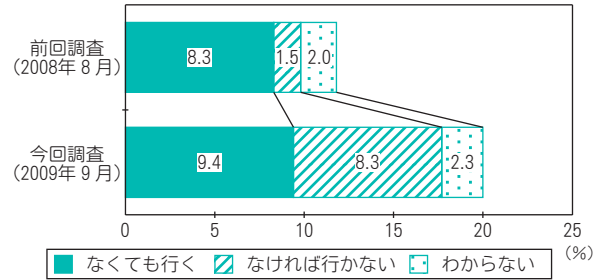
平城遷都1300年祭に「行く（行く予定である）、行きたいと思っている」と回答した人に対し、平城遷都1300年祭がない場合に、奈良を訪問するかどうか尋ねた。

前回調査では8.3%だった「なくても行く」は1.1ポイント上昇の9.4%となった。一方、「なければ行かない」との回答は前回調査の1.5%から今回調査の8.3%へ6.8ポイント上昇した。

平城遷都1300年祭がなければ奈良に足を運ば

ない人の割合が5倍以上に増えたことから、平城遷都1300年祭の開催がもたらす奈良県宿泊観光への効果が大きく増加したと考えられる。

平城遷都1300年祭がない場合の奈良への訪問



4 平城遷都1300年祭開催に向けて(まとめ)

1. アンケート結果の総括

平城遷都1300年祭の認知度については、会場（奈良県）に近いこともあり、首都圏よりも近畿圏等のほうが全般的に認知度は高かった。しかし、平城遷都1300年祭の名前は知っていても、内容まで知っているとは回答した人は首都圏で約1割、近畿圏等で約2割と今のところは少ない。また、近畿圏等の中でも和歌山県での認知度は低いなど、府県によって認知度にバラツキがみられた。

平城遷都1300年祭を知った経路については、「テレビ・ラジオ番組」が最も多かった。「せんとくんのPR活動」は2番目に多く、テレビ・ラジオにせんとくんが出演したことでPR活動に繋がったものと考えられる。

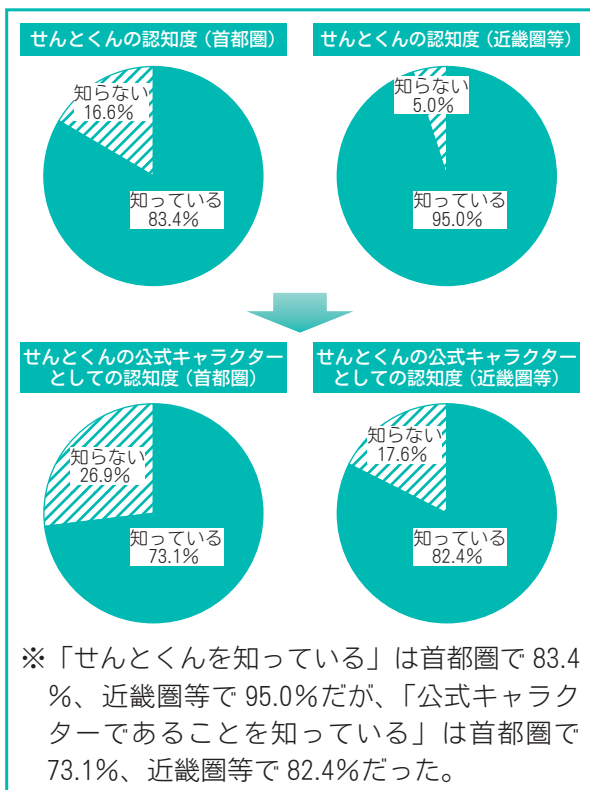
ただし、回答者の中にはせんとくんは知っているも、せんとくんが平城遷都1300年祭の公式マスコットキャラクターであることを知らない人も比較的多く、平城遷都1300年祭をPRするという観点からはこれからの課題となるだろう。

平城遷都1300年祭の興味度については、「興味がある」と「興味がない」がほぼ半々となり、評価は分かれている。興味の度合いを回答者の居住地別にみると、首都圏では大きな差異はないが、

特集

近畿圏等では府県によって、興味の度合いは異なっていた。

また、昨年の調査と比べると首都圏在住者の興味度合いはさほど増えていない。



平城遷都1300年祭への参加については、「行く(行く予定である)」との回答は少なく、大半が「今のところ予定はない」と回答した。さらに、興味があると回答した人のうち約半数は「興味があっても行く予定はない」と回答している。また、「興味はない」や「わからない」と回答した人で参加する人はさらに少なかった。

平城遷都1300年祭に参加する行程は、首都圏では「日帰り」での参加はほとんどなく、宿泊の中でも「2泊3日」が多かった。近畿圏等からは「日帰り」が中心であるが、全体の3割程度は「1泊2日」で、三重県が特に宿泊の割合が多く、また、京都府以外はすべての府県で「1泊2日」での宿泊ニーズがあった。

宿泊場所は、開催地が奈良県ということもあり奈良県が最も多いのは当然で、近畿圏等では9割程度が奈良県での宿泊であるが、首都圏では奈良県以外に京都府での宿泊も多くみられた。

2. 課題と展望

ここで、アンケート結果からみた課題・懸念材料を3点挙げておきたい。

①平城遷都1300年祭と食のPRを強化

前回調査からの1年間で、首都圏在住者における平城遷都1300年祭の認知度は若干高まったものの、興味度はさほど増えていない。また、「行く(行く予定である)、行きたいと思っている」人は11.8%から20.0%に上昇したが、20.0%のうち「行きたいと思っている」人が19.0%で、「行く(予定である)」は1.0%に過ぎない。近畿圏等在住者も「行く(行く予定である)」との回答は5.8%、行きたいと思っている」を加えても3割強で、6割以上は「今のところ予定はない」と回答している。

一般的に、行く予定のない人が訪問する確率は低いと考えられるから、今後は「行きたいと思っている人にいかにして実際に来てもらうか」であろう。平城遷都1300年祭来訪のためには、まずは興味を持ってもらう事が必要である。その興味は内容を知ってもらう事から始まる。したがって今後、認知度を高めるためのさらなるPRが必要だが、それには明確な「売り」を示す必要があると思われる。

観光客が望むのは、「いつどこへ行けばどんなイベントを楽しめるのか」である。しかし今の「平城遷都1300年祭 事業計画」をみると、イベントのラインナップは多岐にわたるが、逆にメニューが盛りだくさんすぎて、観光客がいつ、どのように訪問したらよいかのわかりにくいように思われる。

このままでは、「大極殿完成記念式典」(4月)や「平城遷都1300年祭記念祝典」(10月)といっ

た特定の期間だけ観光客が集まり、他の日の来訪者は少ないということにもなりかねない。アンケートで4月、10月に訪問が集中していることが、その予兆といえるかもしれない。

次に、「食」の問題である。「食」に関しては、「不足している」や「充実すべき」との指摘が多かった。その原因が、「質や量の問題」なのかあるいは「PRの不足によるもの」なのかはアンケート結果からはわからないが、いずれにしても「食」に関する負の因子があることは間違いなく、引き続き食の開発やPRに努めていく必要があると思われる。

ただ、11月3日に、地元奈良県の食材を使って料理を提供する「奈良フードフェスティバル 2009 “cu-cal in 奈良”」が始まり、奈良発の「食の魅力」が新たに登場した。本フェスティバルは来年の開催も検討されており、平城遷都1300年祭の強い味方として期待できよう。

②他府県への宿泊客流出の懸念

続いて、宿泊に関する懸念材料である。宿泊客の40%を占めるといわれる首都圏など遠方からの奈良県への来訪は鉄道（新幹線）利用が比較的多い。ETC休日特別割引制度や高速道路の無料化など自家用車が増える要因もあるが、やはり主流となるのは新幹線の利用である。

メイン会場である平城宮跡へのアクセスは、JR奈良駅と近鉄大和西大寺駅からである。そのうち、京都府や大阪府、三重県等から近鉄で平城宮跡に来る場合、最寄り駅は大和西大寺駅である。宿泊する観光客がいったん大和西大寺駅まで戻ると、そこから奈良県（奈良市）、大阪府、京都府のいずれの宿泊施設に行く場合でも列車に乗る必要がある。

これは『地元で宿泊するメリット』が薄れることを意味し、そうなれば、アンケート結果で奈良県に次いで多かった京都府など他の地域へ宿泊客

が流れていく可能性も否めない。したがって、奈良の宿泊施設に泊まるメリットや魅力を宿泊客に十分PRしていく必要があると思われる。

③「おもてなしの心」の醸成

最後に、「おもてなしの心」についてである。心をこめて「もてなす」ことは顧客満足的面から言っても重要で、それは二回目以降の観光客増加すなわちリピーターの増加に繋がる要因である。

アンケートでは「おもてなしの心」の項目は、観光地奈良において「不足する項目」あるいは「充実させるべき項目」であるとの指摘は少なかった。

しかし一般的に、観光客は楽しみや安らぎなどを求めて旅行に行く。訪問した場所で、手厚いもてなしを受け、対応に満足したならファンになる。反対に、おもてなしが不十分であるなら、二度とその場所を訪れないばかりか悪い評判を口にするようになる。

観光客が次回以降の奈良県への訪問を考える時、「手厚いおもてなしがあるかないか」が将来的な「奈良ファン」と「奈良嫌い」の分かれ目となる。したがって、「今は低いから大丈夫」と現状に満足してはいけぬ。また、注意すべきは、「おもてなし」は、観光に携わる者だけでなく、地域住民も含めたステークホルダー全員で取り組む必要があるということである。

さて、知名度が高く、もはや全国区になった感がある「せんとくん」には、公式マスコットキャラクターとして平城遷都1300年祭をPRし、さらに盛り上げてもらいたい。さらなる活躍を期待する。

平城遷都1300年祭に数多くの人に訪れてもらい、いにしへの奈良の魅力を感じて、そして満足して帰ってもらえれば、再び奈良県を訪れたいという気持ちが醸成される。そのような流れができれば、今後の奈良県観光の活性化に繋がると確信している。

（丸尾 尚史）